

### 【短報】神奈川県南部で観察・採集されたツヤナシコメツキダマシ

ツヤナシコメツキダマシ *Heterotaxis nipparensis* Hisamatsu は、東京都の日原で採集された2個体の雌に基づいて1957年に命名記載された種である。これまでに本州、四国、屋久島の生息が確認されているが、いずれの地域においても採集例は少なく、その生態については明らかではない。

筆者は、神奈川県南部の公園内において採集された多くの個体を検することができたので、ここに形態を簡単に紹介するとともに、若干の知見を加え報告しておきたい。

報告に先立ち、詳しい観察状況をご教示いただいた上、貴重な標本をご恵みくださった東京都の酒井香氏に厚くお礼申し上げる。

検視標本。1♀, 19. VI. 2010, 横浜市横浜自然観察の森, 酒井香採集; 2♀♀, 1. VII. 2010, 同地, 同氏採集; 7♂♂5♀♀, 22. VI. 2011, 同地, 同氏採集(筆者保管)。

形態的特徴。体長: 4.6–6.8 mm; 体幅: 1.6–2.0 mm。体は赤褐色の付節を除き黒褐色～黒色であるが、ときに上翅基部および会合部が赤褐色となる。頭部と前胸背板はへそ状の細かい点刻で密布され、光沢を欠く。触角は太く、前胸背板後角をわずかに越える程度。第2節は球状で、第3節より強く鋸歯状となる。前胸背板には正中線に沿った溝が存在する。小楯板は幅広い舌状を呈し、表面は平滑で光沢を放つ。上翅条線は深く明瞭で間室は密に点刻されやや鮫肌状となる。脚は短く、付節第4節は先端に広がり葉片状となる。前付節はやや扁平で、第3・4節を合わせた長さより明らかに短い。



Figs. 1–2. ツヤナシコメツキダマシ *Heterotaxis nipparensis* Hisamatsu. 1, ♂; 2, ♀.

爪は単純だが基半部が広がる。

関東地方で採集記録された場所の標高を調べてみると、東京都の日原 (Hisamatsu, 1957) が標高約 650 m、神奈川県山北町世附法行沢 (鈴木, 2003) が約 500 m、厚木市七沢大沢 (平野・高橋・槐, 2006) が 90～180 m、そして今回の横浜自然観察の森が 100 m 弱となり、この地域では、低い丘陵地から低山地にかけて広く生息する種であるといえる。

酒井氏からうかがうことができた観察採集時の状況を簡単にまとめると、「いずれの個体も、整備された公園の広場の近くにあった同じ切り株で採集したもので、陽が当たっている部分に多くの個体がみられた。切り株は太さ 1 m ぐらいで、完全に枯れてからかなり時間が経っており、樹皮は剥がれ、材は菌に侵された状態のものであった。2011 年の観察では、採集した個体以外にも多くの個体が見られ、その場で交尾している個体も観察できた。ただ、この材が本種のホストなのか、また、この木から発生したものなのかの確認はすることができなかった。2012 年は時期を遅らせて 8 月に同地を訪ねたが、本種の姿は確認できなかった」ということである。今回の観察・採集例から考えると、標高の低いこの地域においては、6 月から 7 月にかけて発生がピークとなるようである。

整備された公園においてコメツキダマシが昼間観察されること自体珍しいが、観察された種が全国的に見ても採集例が少ない種であったことは、注目に値する。本種の生態を明らかにする意味でも、同様の環境の調査が望まれる。

本種は一見メスグロミゾコメツキダマシ *Torigaia bicolor* Hisamatsu et M. Satô, 1959 に似るが、より小型であることや、雄では触角が強い鋸歯状で櫛歯状とならないこと、雌では第 5 腹部末端が円くえぐられることにより、後者から区別することができる。

本種の所属については、Hisamatsu (1957) でも触角の違いに触れているが、タイプ種との間に大きな違いがあることから、再検討が必要と思われる。

#### 引用文献

- 平野幸彦・高橋和弘・槐 真史, 2006. 厚木市七沢・大山のコウチュウ目. 厚木市七沢の動植物Ⅲ: 3–90.  
Hisamatsu, S., 1957. A new species of Eucnemidae from Japan (Coleoptera). *Akita, Kyoto*, 6: 45–46.  
鈴木 互, 2003. 神奈川県におけるツヤナシコメツキダマシの記録. *甲虫ニュース*, (143): 18.

(鈴木 互 法政大学二高等学校生物科)